

「史跡めぐり」 4 月現地活動

— 日本橋周辺 —

月番 海野、川村、高橋、茂木

1. 集合日時 4 月 27 日 (木) 9 時 50 分
2. 集合場所 上野駅中央改札を出た右側ビュープラザ内
3. 散策行程 日本橋→10:30 貨幣博物館→日本橋三越本店・コレド室町 1・2 [昼食] …老舗巡り…13:15 三越ライオン像前に集合→福德神社・薬租神社→13:30 菓ミュージアム (第一三共) →小津和紙 (史料館・和紙照覧・ギャラリー) →十思公園 (石町時の鐘、吉田松陰終焉之地、江戸伝馬町牢屋敷跡)
4. 入館料 全館無料



日本橋

日本橋の南西の袂にある『日本橋由来記（碑文）』には、
「慶長8年、幕府は譜大名に課して、城東の海浜を埋め市街を営み、街道を通し始めて本橋を架す。人呼んで日本橋と称し遂に橋名となる。翌年、諸街道に一里塚を築くや実に本橋をもって起点となす。…明治の聖代に至り百般の文物日々新なるに伴い、本橋もまた明治44年(1911)3月に新装(右写真)と成り今日に至る。ここに橋畔に碑を建て由来を刻し、もって後世に伝う。昭和11年(1936)4月 日本橋区」とある。



日本橋魚河岸記念碑

「魚河岸」は17世紀の初めに開設され、日本橋と江戸橋の間、日本橋川の北岸にあった。昭和10年(1935)に築地市場へ移転するまで、江戸と東京の人びとの食生活を支えていた。

日本国道路元標と東京市道路元標(右写真)

日本橋の中央にあった東京市道路元標は都電本通線の架線柱として使用されていたが、都電廃止後の昭和47年(1972)道路改修に伴い日本橋の北西側袂に移設された。東京市道路元標があった場所には、50cm四方の日本国道路元標が埋め込まれている。



貨幣博物館

貨幣博物館は、日本銀行本店の向かい側の日銀金融研究所2階フロアにあり、日銀創立100周年を記念して設置され、昭和60年(1985)11月に開館した。

映像コーナーで博物館の概略説明が見られ、館内に入ると「日本の貨幣史」として、古代から現在に至るまでの貨幣・紙幣と資料により貨幣制度の移り変わりを展示している。



和同開珎



渡来銭



金・銀・銭



千両箱



両替商の天秤



最初の日本銀行券/大黒札

銀の重さを量った分銅は、両替商の看板にも使われ、現在は銀行を示す地図記号となっている。



発掘された貨幣、軍票、記念硬貨などが順路毎に約4000点展示され、現在のお札に使われている偽造防止技術(紙幣右側に光に透かすと表れるバーなど)を見るコーナーもある。

お土産品の売店近くでは、1億円分の紙幣の紙包みがあり重さの体験ができる。(右写真)



日本橋三越本店

延宝元年(1673)に三井高利が「越後屋」を開業し、明治37年(1904)「合名会社三井呉服店」から「株式会社三越呉服店」となった。大正3年(1914)には鉄筋コンクリート造によるルネッサンス様式、5階建て中央部に5階までの吹き抜けのある百貨店に生まれ変わった。関東大震災を経て、昭和10年(1935)全館の増改築が完成し、現在見られるような規模となった。



・正面玄関のライオン像



大正3年(1914)に、ロンドンのトラファルガー広場にある獅子像をモデルに設置された。左足に触れると幸運になると伝えられ、入店客の手によりピッカピカになっている。

・中央ホールの採光天井と天女像



採光天井にはステンドグラスが貼られ、2階バルコニーにはパイプオルガンが設置され、周りの大理石にはアンモナイトの化石が多数見られる。ヒノキ材木彫の天女

像は、昭和35年(1960)に創立50周年を記念して建立された。

日本橋の老舗（商品と創業）

さる屋…楊枝 宝永元年(1704)、 木屋…刃物 寛政4年(1792)
黒江屋…漆器 元禄2年(1689)、 鮎佐…佃煮 文久2年(1862)
千疋屋…果物 天保5年(1837)、 にんべん…鯉節 元禄12年(1689)
山本海苔店…海苔 嘉永2年(1849)
榮太郎總本舗…和菓子 安政4年(1857)

Daiichi-Sankyo くすりミュージアム

第一三共(株)は2012年2月、日本橋の本社ビル内に「くすりミュージアム」をオープンさせた。「くすりについて楽しみながら学ぶことができる施設」をコンセプトに、ICチップ入りのメダルを使った体験型アトラクションを通じて、薬に関する歴史や研究、仕組み等に触れることができる。一般の来場者を対象に、医薬品について多面的な啓発活動を行っている。



医薬に関する展示施設としては、エーザイの「内藤記念くすり博物館」や武田薬品工業の「京都薬用植物園」、ツムラの「漢方記念館」などが存在する。だが、東京都内では製薬企業による同種の施設は第一三共の「くすりミュージアム」が初めてで、同社では「企業の立場を超え、公共性を有した『くすりの情報発信基地』」の役割を担うとしている。

展示フロアでは、医薬品の歴史や創薬の実際、体内での薬の働きなどについて、高精細で双方向の画像装置を用いて学ぶことができる。また、ゲーム感覚で楽しめるように工夫されている。日本橋本町に元禄2年(1689)に薬種問屋「きぐすりや」の座が生まれ、江戸時代から

薬酒問屋の町として栄えた日本橋の交流スポットとして、地域貢献の役割も担っている。

福德の森



小津和紙

1階は承応2年(1653)創業の店舗と手漉き和紙体験工房、2階は展示ギャラリー、文化教室とお休み処である。3階には、創業以来の、紙と小津和紙の関わりを物語る文書類、用具類を公開している史料館と、日本の各地の和紙と紙漉職人を紹介する和紙照覧があり、プロジェクターによる和紙産地の動画が視聴できる。



江戸三縁史蹟（十思公園）

石町時の鐘 宝永時鐘

江戸時代最初の時の鐘で、2代将軍秀忠までは江戸城内の西の丸で突いていたが、鐘楼堂が御座の間近くにあるため太鼓に換え、鐘は日本橋石町に鐘楼堂を造って納めたのが起源である。再三火災に遭い破損し宝永8年(1711)に铸造されたのがこの鐘である。



吉田松陰終焉之地

吉田松陰は天保元年(1830)8月長州松本村で生まれた。安政元年(1854)3月海外渡航を計り、下田から米艦に便乗しようとして失敗し伝馬町獄送りとなった。約6ヶ月間獄に留置されたが、国元萩に謹慎の身となり、松下村塾を開き多くの著名の士を輩出した。後に、松陰は安政の大獄に連座し再び伝馬町獄に入牢となった。処刑の時の近づいたのを知って書きあげた留魂録の冒頭にあるのが「身はたとえ武蔵野の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」の一首である。安政6年(1859)10月27日に処刑され、行年30歳であった。



江戸伝馬町牢屋敷跡

伝馬町牢は慶長年間、常盤橋際から移って明治8年(1875)市ヶ谷囚獄が出来るまで約270年間存続し、この間に全国から江戸伝馬町獄送りとして入牢した者は10万人を数えたといわれる。当時は敷地総面積2,618坪(枠内が敷地)、隣接する十思スクエアロビーに復元模型が展示されている。



江戸切絵図 嘉永3年(1820)





日本橋由来記(碑文)



日本国道路原標



貨幣の歴史を学ぶ



福德の森へ散策